

特定非営利活動法人海の自然史研究所 第12期(2016年1月1日～12月31日) 事業報告

■事業の概況

教育事業では、進めてきたMAREやCOSIA、CRS、Poseidonの普及事業について、プログラムの実施や指導の要請に応じて実践をすすめてきました。指導者養成や指導者向けのコミュニケーションスキルアップ研修などもおこないました。宮城県南三陸町のオフィスでは、地元の子どもたちや南三陸町への来訪者向けに幅広い教育活動を展開してきました。

研究事業では、学会発表や著書の執筆をおこないました。

企画事業では、南三陸オフィスは業務のベースとなる南三陸町委託事業をおこないながら、情報紙を発行するなど海の理解をすすめる活動をすすめてきました。

継続して環境省から受託し、ビジターセンターの供用開始に向けた準備をすすめてきたフィールドミュージアム事業は、4月より2つのビジターセンター準備室をたちあげて事業を開始するはこびとなりました。11月には南三陸・海のビジターセンターが完成し供用開始となり、いよいよビジターセンター業務が本格稼働しました。日々の活動はFacebookページで、施設紹介などはwebsiteで行っていますので、ぜひチェックしてみてください。www.kawatouminovisitorcenter.jp

■教育事業報告

2016年度は、以下のような講座・セミナーの開催、海洋教育プログラムの実践などをおこないました。

1) 海洋教育プログラムの実践・海の授業の実施

9月	埼玉県	11月の沖縄研修旅行のための事前講義。 亜熱帯地域の沖縄の自然とサンゴを育む海の特徴についての講話をおこなった。	大妻嵐山高校
10月	東京都	理科の特別授業として全4回で実施する授業。 MARE「水鳥たちのウェットランド食堂」を実施。	東京大学教育学部附属 中等教育学校
11月	東京都	理科の特別授業として全4回で実施する授業。 MARE「魚！サカナ！さかな！」を実施。	東京大学教育学部附属 中等教育学校
12月	東京都	理科の特別授業として全4回で実施する授業。 MARE「プランクトンレース」を実施。	東京大学教育学部附属 中等教育学校

2) 海洋科学コミュニケーション実践講座の開催

11月	鹿児島県	日本海洋学会。「第5回COSIA体験ワークショップ」。 「人はどう学ぶのか、また、人の学び方に関する理解を反映させた学習経験をどうつくるのか」をテーマとするワークショップを開催した。
-----	------	--

3) オーダーメイド型 海洋教育実践者スキルアップ講座の開催

1月	愛媛県	愛媛県総合科学博物館。「海の学び・指導者研修会」。2日間。 海の教育を実践するための科学コミュニケーションに関するワークショップ。海についての学びを伝える技術を学ぶ研修。
5月	宮城県	第二管区海上保安本部。「環境教室担当者研修」。2日間。 海上保安庁の「海洋環境保全教室」担当者向けの教える技術習得研修。

4) 修学旅行生向け海洋科学講義、フィールド学習プログラムの実施

9月	沖縄県	学習院高等科 フィールドでの海洋学習プログラム。 サンゴ礁池とサンゴ養育施設でのサンゴ観察をおこなった。
11月	沖縄県	大妻嵐山高校 フィールド学習の事前講義。 サンゴについて、フィールド学習時のポイントについての講話をおこなった。
11月	沖縄県	大妻嵐山高校 フィールドでの海洋学習プログラム。 サンゴ礁池とサンゴ養育施設でのサンゴ観察をおこなった。

5) 教育プログラム企画、教材の作成

10月 11月 12月	島根県	島根県立しまね海洋館(アクアス)。「環境教育における「ESD 推進」のための実践的拠点支援事業(環境省)」。 事業で実施する2回の研修に向け、研修の企画ミーティングに参加。研修では、模範プログラムとしての「この先、海です。プロジェクト」の講師、グループワークのファシリテーターを担当する予定。
-------------------	-----	---

6) その他 海洋教育関連の研修など

11月	沖縄県	独立行政法人国際協力機構 沖縄国際センターが主催する「平成28年度 JICA 課題別研修「保護地域協働管理を通じた脆弱な沿岸・海洋生態系保全」」での「環境教育における「伝える」技術/CEPA」を担当。 フィジー、ミャンマー、パラオ、ソロモン、ハイチの沿岸及び海洋生態系保全業務に携わる中央および地方自治体の行政官、関係団体職員(NGO、研究機関等)からなる研修員向けの講座。「この先、海です。プロジェクト」を題材におこなった。
12月	沖縄県	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立沖縄青少年交流の家が主催する「平成28年度九州地区青少年教育施設職員研修会」での「海洋における体験型科学教育」の講座を担当。「サンゴのテリトリーウォーズ」を題材におこなった。
12月	兵庫県	「サンゴのテリトリーウォーズ」を兵庫教育大学の小学校教員養成特別コース(理科教育学)での学習の手法を学ぶ授業に取り入れるために、このプログラムの組み立てや指導法のレクチャーをおこなった。

南三陸オフィス

7) 海洋教育プログラムの実践・海の授業の実施

6月	南三陸町立伊里前小学校 第4学年の「宿泊体験学習」での磯観察。 南三陸町戸倉坂本海岸にて磯観察を実施し、磯の生き物の紹介などをおこなった。
11月	南三陸町立志津川小学校 第5学年の総合学習「南三陸町環境を見つめ直そう」での授業。 南三陸の水産業とサケの生態について学ぶ授業を実施した。

8) 来訪者向けの海洋教育プログラムの実践

1月	伊奈学園総合高等学校(埼玉県) 海藻おしば講座 修学旅行での体験プログラムのひとつとして実施した。
7月	気仙沼市教研環境教育部会 海藻おしば講座 海に行かなくても海を学べる海洋教育の授業プログラムとして気仙沼市内の小学校教員が体験した。
7月	WWF・(株)カスミ主催 ネイチャーキッズ特派員「とうほく南三陸探検隊」 小学校4~6年生8名が南三陸町を訪れ、自然体験を通して多様な生物の生きる南三陸の海を知り、また、この地の水産業や人々の暮らしを学ぶ3日間のプログラムを企画して受入した。
8月	社会福祉法人アップル(栃木県) 海藻おしば講座 学童保育の子どもたち(小1~6)の南三陸町でのサマーキャンプでのプログラムとして実施した。

9) 教材制作

水産物学習リーフレット「海モノブック」の改訂	Vol.1 「サケ」
	Vol.3 「タラ」
	Vol.7 「アナゴ」
すごろく手ぬぐいの改訂	サケ生すごろく

■研究事業報告

2016 年度は、以下の論文・著書の執筆と学会講演などの研究業績をあげました。

1) 学会発表

今宮則子・森有紀子・都築章子・上野亮・深見裕伸・中山迅, 2016. 中学校・大学・NPO の連携による海洋科学教育実践の試み. 日本科学教育学会第 40 回年会論文集, pp.431-432, 大分(2016 年 8 月 19 日~21 日).

Akiko Tsuzuki・Noriko Imamiya・Kazuya Hirai・Yukiko Mori, 2016. A Case Study of Custom-made Workshops for Informal Ocean Science Educators. 2016 International Conference of East-Asian Association for Science Education. Proceedings pp.174. Tokyo University of Science, Tokyo(August 26-28, 2016)

特定非営利活動法人海尾自然史研究所, 2016. アウトリーチ活動における講師のコミュニケーション能力を育てる研修の実践. イベント A「海洋教育特別ポスター -海洋教育・アウトリーチ活動の実践と課題-」. 日本海洋学会 2016 年秋季大会, 鹿児島(鹿児島大学郡元キャンパス:2016 年 9 月 11 日~15 日)

2) 著書

今宮則子・稲嶺盛久(共著), 2016. 「この先、海です」プロジェクト, p34-35, In: 日本環境教育学会(編), アクティブ・ラーニングと環境教育, 小学館, 東京都, 128pp, ISBN 978-4-09105-038-0

■企画事業報告

南三陸オフィス

1) 環境調査業務…南三陸町委託事業

南三陸町の沿岸海域において、水質、水産物の状況を定期的に調査し、水産業の復興を左右する沿岸海域の環境及び水産物について基礎的な情報を得るための調査業務を受託しておこなっています。

水産物の放射性物質濃度スクリーニング検査	月～金の週 4 日程度	当期測定点数315点
志津川湾水質調査	月1回(1月～3月) 月2回(4月～12月)	志津川湾内 3 地点
プランクトン量測定用海水採取	月1回(1月～3月)	志津川湾内 3 地点

※ 水産物の放射能物質濃度スクリーニング検査結果については、海研のブログにデータをアップしていません。

2) 海水および河川水採取業務

調査研究プロジェクト「開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における沿岸環境管理法の開発」の支援として志津川湾および南三陸町内河川での採水業務をおこないました。

河川水採取	週1回(1月～3月)	町内3河川の各2地点	北海道大学委託
-------	------------	------------	---------

3) 「南三陸どっちゃん通信」の発行

地域の魚を知って魚食を増やすこと、地域の海への親しみを持ってもらうことを目的に、町の海に関する幅広い情報を掲載した情報誌を企画し発行しています。

発行月：2月(第4号)、5月(第5号)、8月(第6号)、11月(第7号)
発行部数：各号1000部
配布先：町内鮮魚店をはじめとする各種店舗、観光協会、宿泊施設、公共施設など

4) 南三陸味わい開発室プロジェクト…東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト助成

地元の水産物を使っておこなってきたメニュー開発で蓄積したレシピの披露、地域食材のPR などをおこないました。

2月	沖縄県	「南三陸味わいナイト in 読谷村」
----	-----	--------------------

5) 他団体への協力

2月	東北再生「私大ネット36」スタディツアーへの協力 東北再生「私大ネット36」のおこなう『復興』への物語を聴く旅～物語創作を通して今を知る～』をテーマとするスタディツアーに協力し、絵本の続きとなる物語を考える取り組みをおこないました。
----	---

川と海のビジターセンター

1) 平成27年度フィールドミュージアム自然体験リーダー育成支援業務の受託…(環境省委託事業。2月未まで。)

2013年(平成25年度)から継続中の、三陸復興国立公園に整備するビジターセンターの供用開始に向けた準備事業。平成27年度は、フィールド利用ルール案(山、川、海の主要なフィールド3か所)と教材としてのジオラマ画(春の海、夏の山、秋から初冬の川の3種。盛口満氏による描画。)の作成、および自然体験プログラムを提供する自然体験リーダーを育成するための研修(15回)を実施、さらに自然体験プログラムを一般向けに実施してみる研修を3回おこない、フィールドミュージアムエリア内のビジターセンター等における自然体験活動の推進に必要な準備を行いました。

2) 2月17日、ビジターセンターの事業運営をおこなう組織「フィールドミュージアム運営協議会」が設立されました。

フィールドミュージアム運営協議会は、ビジターセンターを核とするこのエリアでの自然体験活動を通して、エコツーリズムおよび環境教育を面的、複合的に推進することにより、自然環境保全および地域の活性化に寄与することを目的として、この地域に関わる異なる主体により設立されました。設立当初の会員は、石巻市・南三陸町・環境省・海研の四者です。私ども海研は、この協議会の事務局を担当し、フィールドミュージアム運営協議会の事務管理とともに、協議会がビジターセンターで実施する事業について推進していくこととなります。

さらに海研は、環境省からビジターセンターでの案内業務と施設維持管理を請け負うことになり、協議会の事務局業務とともに一体的な管理運営をおこなうことになりました。

3) 4月より、「南三陸・海のビジターセンター準備室」と「石巻・川のビジターセンター準備室」がオープンし、事業を開始しました。

南三陸・海のビジターセンター準備室は、神割崎キャンプ場(南三陸町)の駐車場にプレハブを設置し、石

巻・川のビジターセンター準備室は、「WE ARE ONE 北上」(石巻市北上町十三浜)のシェアオフィスを借りて準備室としました。

毎月の月例プログラムの実施や、フィールドミュージアム自然体験リーダー(組織名:EELs)との勉強会、建設の始まった海のビジターセンターの供用開始に向けた準備などをはじめました。

4) 11月19日、「南三陸・海のビジターセンター」がオープンしました。

南三陸・海のビジターセンターが供用開始となり、いよいよ本格的なビジターセンター業務がはじまりました。

石巻・川のビジターセンターのほうは、もうしばらく準備室での運営となります。

5) ビジターセンターでは下記のようなイベントや行事などをおこないません。

月例イベントは一般向けにおこなったもの、勉強会は海研スタッフおよび EELsメンバーがビジターセンター運営のためにおこなったものです。

4月	月例イベント(海のビジターセンター(以降、「海」)):神割崎キャンプ場ハイキング 月例イベント(川のビジターセンター(以降、「川」)):大盤平ハイキング 勉強会:国立公園、ビジターセンターについて・安全管理マニュアル・ビジネスマナーとドレスコード
5月	月例イベント(海):磯の観察会 月例イベント(川):ヨシ原の観察会 館内常設プログラム:石ころアート 勉強会:磯のジオラマ図解説・自然体験活動について
6月	月例イベント(海):野外調理 月例イベント(川):SUP 体験会 館内常設プログラム:自然かるた 勉強会:ビジネスマナー・磯のジオラマ図解説・海研及びビジターセンターについて・海藻について
7月	月例イベント(海):SUP 体験会 月例イベント(川):大盤平アウトドアブランチ…参加者 0 により催行せず 勉強会:ビジターセンターの刊行物について・川のジオラマ図解説
8月	月例イベント(海+川):子どもサマーキャンプ…荒天により中止 勉強会:ホヤ、ホタテについて
9月	月例イベント(海):スノーケリング…荒天により中止 月例イベント(川):クップ体験 勉強会:山のジオラマ図解説・サケについて・
10月	月例イベント(海):10/15 野外調理 月例イベント(川):10/16 カヤック体験 勉強会:ビジターセンターQ&A
11月	月例イベント(海):11/26 この先、海ですプロジェクト 月例イベント(川):11/27 火防線トレイル 海のビジターセンターオープニングイベント:11/18~27 オーシャンウィーク 勉強会:ビジターセンターQ&A・海の生き物について・緊急時対応について・剥製のオオワシについて
12月	月例イベント(海):12/17 火防線トレイル 月例イベント(川):12/18 この先、海ですプロジェクト 講座:判例から学ぶリスクマネジメント講座 勉強会:鳥インフルエンザについて・ポスター展示内容について

6) ビジターセンターでの業務から派生した業務

7月	平成 28 年度第 1 回石巻市環境市民講座での講師 石巻の海についてとその資源の活かし方、エコツアーリズムについて講演した。
----	--

7月	平成 28 年度第 2 回石巻市環境市民講座での講師 海岸の清掃活動、海洋ごみに関する講座、白浜海水浴場ビーチクリーンをおこなった。
8月	公益財団法人日本自然保護協会 南三陸寺浜における湿地植生調査への協力 日本自然保護協会が平成 26 年度よりおこなっているモニタリング調査への専門家派遣をおこなった。
9月	南三陸森林管理協議会 植生および森林環境のモニタリング調査への協力 南三陸森林管理協議会が平成 27 年度に取得した FSC 国際認証に基づく植生調査に専門家派遣をおこなった。
9月	平成 28 年度第 4 回石巻市環境市民講座での講師 「この先、海です。プロジェクト」の解説と体験をおこなった。
1月～ 12月	一般社団法人南三陸研修センターの研修プログラム開発をサポート 南三陸トレイルワーク入谷編「南三陸トレイルワーク入谷さんさん館編」「南三陸トレイルワーク神割崎編(通称神割クエスト)」を開発、実践した。

■その他の事業報告

1) オリジナルグッズ製作…東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト助成

海を題材にした以下のオリジナルグッズの企画・製作をおこないました。

海の生きものペンダント(ダンゴウオ)
海の生きものペンダント(クチバシカジカ)
海の生きものペンダント(ウミクワガタ)

2) グッズ販売

海研で制作したグッズは、下記の場所で常設販売しています。

①オンラインショップ

いであるミュージアムショップ <https://ideal.marinelearning.org/>

②南三陸町神割崎キャンプ場レストハウス内の販売コーナー

③南三陸町観光協会みなみな屋(一部のグッズを卸し、店舗で販売されています。)